**典礼解説：四旬節**

　**復活祭前の準備期間を四旬節（しじゅんせつ）と呼んでいます。イエスが荒れ野で40日間断食をしたことに由来しています。もともとは復活徹夜祭に洗礼を受ける志願者たちの準備期間として起こりました。教会をあげて復活祭をふさわしく迎えることができるように、祈りと施しと断食に励む習慣が初期の時代から始まっていました。主日は復活の記念日として断食をしない習慣だったので、断食日が実際に40日になるように、46日前の灰の水曜日から四旬節を始めるようになりました。現行の規則では、四旬節は、「聖なる過越の3日間」が始まる主の晩餐の夕べのミサの前で終わります。
　灰の水曜日**
**灰の水曜日に教会では、回心のしるしとして頭か額に灰をかける「灰の式」という典礼があります。「灰の式」は、「土から出て土に帰っていく私たちが、四旬節の努めに励み、罪のゆるしを受けて新しいいのちを得、復活されたおん子の姿にあやかることができるように」願って、昨年枝の主日に祝福していただいた、棕櫚（しゅろ）やオリーブの枝を燃やした灰を司祭が一人ひとりの額にかける式です。キリスト教が根付いている国では、この灰の水曜日の直前に、「カーニバル（謝肉祭）」というお祭りがあります。古代や中世期の信者たちは四旬節に肉食を断っていたので、その前にごちそうを食べて大いに騒いでいました。その習慣が今日まで続いているのですが、教会とは直接関係ありません。**
　**大斎・小斎
大斎（だいさい）はイエス・キリストの受難に心をはせるために行う食事制限のことで、「1日に1回十分な食事を摂り、あとの2食は少ない量に抑えること」が基本的な形です。第2バチカン公会議以降は、四旬節中の灰の水曜日と聖金曜日に行うことが求められています。しかし、病人や妊娠中の者、特別な事情がある者は免除されます。大斎（だいさい）は1日に一度だけの十分な食事と、その外に朝ともう一回、わずかな食事を取ることができます。18歳以上60歳未満の健康な信徒が対象となります。**
**小斎（しょうさい）は肉類を食べないことです。これは、各自の判断で他の償いの形、愛徳のわざ、信心業、節制のわざの実行をもって替えることができます。満１４歳以上の人が守ります。**
　**枝の主日（受難の主日）**
**教会は毎年、主イエスのエルサレム入城を記念します。そして、この日から教会の典礼の頂点である「聖週間」とよばれる週に入ります。イエスのエルサレム入城は決定的な受難の道に入ったことを意味し、この時からイエスの歩みは一直線に十字架に向かいます。この日は、エルサレム入城にはじまるキリストの受難が、復活の栄光に至る道であることを思い起こす日です。
司祭は枝をもった会衆を祝福し、入城の福音が朗読され、行列（あるいは、入堂）がはじまります。**

　**「聖なる過越の3日間」（それぞれ聖木曜日、聖金曜日、聖土曜日と呼ばれます）。週の最初の日が「主の日」と呼ばれ、キリストの復活を祝う根源の祝日として、一週間の中心であるように、キリストの受難と復活を記念する聖なる過越の三日間は典礼暦年の頂点となっています。この三日間は、十字架につけられ、葬られ、復活されたキリストの「聖なる三日間」であり、それは「主の晩さんの夕べのミサ」から始って、復活主日の晩の祈りまでの全過程をさし、受難と十字架を通して、死から生命へ移られるキリストの過越の神秘を祝う三日間です。
　聖香油ミサ：聖なる過ぎ越しの3日間の第1日目、聖木曜日。この日、午前中は各司教座聖堂において聖香油のミサがあります。司教は司祭団と共同司式のミサを行い、その中で司祭団は司教の前で司祭叙階の日の“司祭の約束”を更新します。「キリスト」とは、油注がれた者という意味です。旧約聖書では、王、祭司、預言者が注油を受けていました。イエス・キリストは新約の唯一の大司祭、預言者、王として、油注がれた者＝キリストとよばれます。このミサの中で、向こう1年間に使用される聖香油の聖別と、洗礼志願者の油、病者の油が司教により祝福され、各司祭に配られます。
　主の晩さんの夕べのミサ：キリストが聖体、ミサ聖祭、司祭職の秘跡を制定した最後の晩さんの記念を行います。ミサの中では任意の洗足式と聖体安置式があり、
具体的な神の愛としての聖体と兄弟愛を思い起こさせます。
　主の受難：キリストの御受難御死去の記念日です。キリストの死を黙想するとともに、十字架の勝利を賛美するために十字架の顕示の後に、十字架の礼拝式が行われます。なお聖金曜日と聖土曜日は主がご死去し、墓に安置された日であるという古来の伝統に基づき、この両日にミサは行われません。
　復活の聖なる徹夜祭：古来の伝統に基づき、この夜は神のために守る徹夜とされています。参列者はあかりをともして主の帰りを待つことをあらわすために「光の祭儀」（第一部）があり、それに続いて聖なる教会は、神が始めからご自分の民のために行われた偉大なわざをしのびつつ、また神のことばと約束に信頼しつつ徹夜を行い（第二部、「ことばの祭儀」）、やがて復活の日が近づき、洗礼によって生まれた新しい教会の成員（第三部、「洗礼式」）とともに、主が死と復活を通して私たちのために準備された食卓に招かれる「感謝の典礼」（第四部）が行われます。**